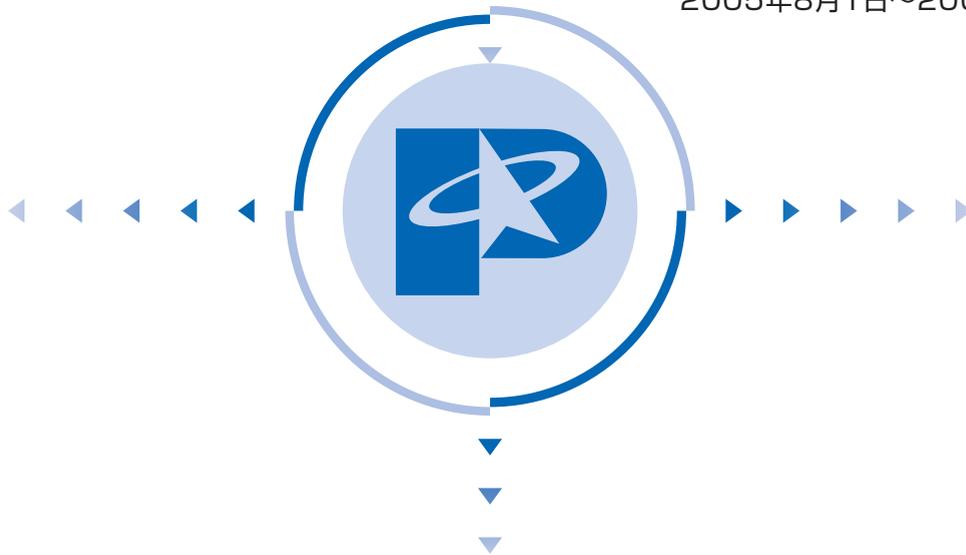




中間事業報告書

2005年8月1日～2006年1月31日



株主・投資家の皆様へ



株主・投資家の皆さまには、平素より格別のご支援ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期の業績は、計画どおり順調に推移いたしました。2006年7月期中間期の業績につきましては、売上高1,141百万円（前中間期比7.2%増）、経常利益226百万円（前中間期比42.7%増）、中間純利益131百万円（前中間期比19.0%増）となりました。

昨年8月センターマシンの入れ換えに成功し、原価の低減を実現したことが、利益の増加をもたらしました。

日本経済もようやく長い低迷を脱し、消費者需要は回復基調にあり流通業界の荷動きも活発化しています。私たちはこれを十数年ぶりのチャンスと捉え、久しぶりにアクセルを踏んで前向きな積極営業を展開していきます。

今後とも、プラネットの経営活動に注目いただき、より一層のご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

2006年4月
代表取締役社長
玉生 弘昌

目次

●株主・投資家の皆様へ	
●財務ハイライト	1
●特集「トップインタビュー」	2
●トピックス	6
●当中間期の事業概況	8
●中間財務諸表	10
●企業情報	12
●株式情報	13



21年目を迎え、より信頼される流通システムの「革新」に挑戦していきます。

少子高齢化や人口減少の影響で、プラネットを取り巻く事業環境は大きく変化しています。当社が基盤としている日用品雑貨化粧品業界もますます成熟していくことでしょう。その一方、ペットフードや大衆薬といった新規参入業界は着実に成長し、当中間期の業績はその将来性を示しています。

今後は関連業界の「インフラ」であり続けるとともに、従来の事務合理化ネットワークから、マーケティング情報を発信するマーケティングネットワークを志向していきます。競争の激しい分野ですが、これまで蓄積してきた業界インフラとしての標準化・効率化推進の実績は大きなアドバンテージになるものと確信しています。

■財務ハイライト

(百万円)

	2006年中間期	2005年中間期	2005年通期
売上高	1,141	1,065	2,186
経常利益	226	158	353
中間(当期)純利益	131	110	233
1株当たり中間(当期)純利益(円)	7,925.59*	13,324.11	26,666.65
総資産	1,855	1,747	1,950
株主資本	1,416	1,190	1,285
株主資本比率(%)	76.3	68.1	65.9

*2005年9月20日付をもって普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。



業界の「インフラ」を目指し、さらに領域を拡大します

代表取締役社長
玉生 弘昌

業績も好調に推移しているようですが、まずプラネットを取り巻くマーケット環境についてお聞かせください

私たちの主なお客さまである日用品雑貨化粧品、それにペット業界などの取扱数量は増加しています。ただ、残念ながら「上流インフレ・下流デフレ」と言われているように商品価格の下落傾向は止まっています。ですから業界の企業は、物流は活発化しているものの、利益はあまり出ていないという状態にあります。

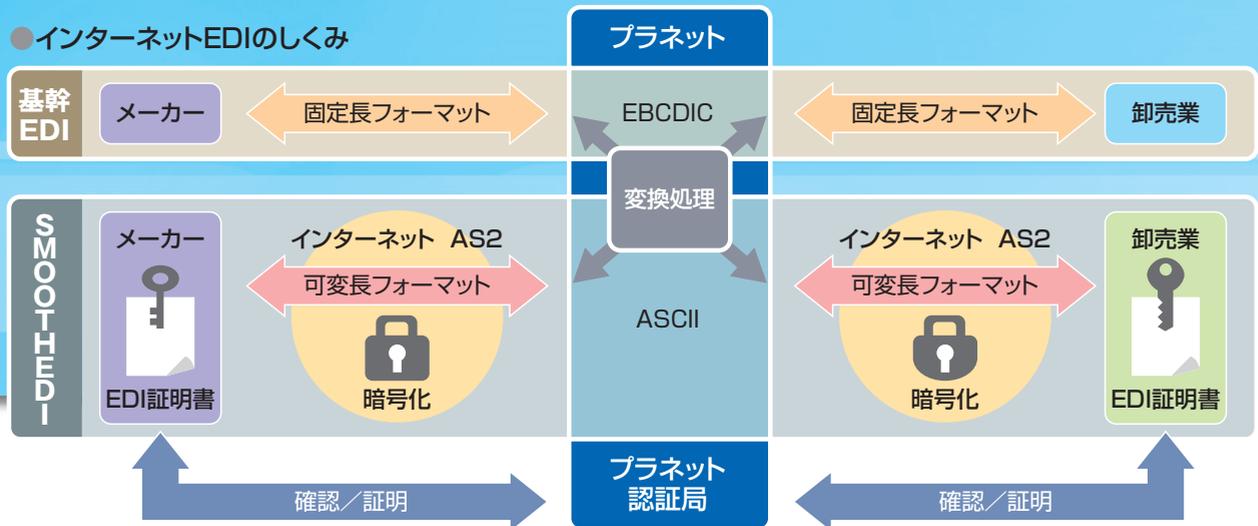
そういう意味では、必ずしもお客さまの景気がいいというわけではありませんが、プラネットは取引量が増えればそれが売上増加につながるわけですから、予想外にいいというのが現状です。また、長い間地道に種をまいてきたものが少しずつ花開いてきたことも影響しています。まだまだ小さい花ですけれども。

取引先企業またはその予備軍の中で、現在伸びているあるいは今後成長が見込める業種にはどのようなものがありますか？

プラネットにとって重要なお客さまになりつつあるのはペット、理美容業界、それに介護関連です。去年、日本の人口は戦後初めて減少に転じましたが、高齢化は今後、さらに加速するでしょう。少子高齢化が進むと、いろいろな物の消費量が少なくなり「少量高品質」をキーワードに、商品はどんどん小口化されていきます。

一方、卸店は凄まじい勢いで合併が進んでおり、それはプラネットにとっては「顧客の減少」ということになるわけです。当然売り上げは圧縮される理屈でダメージがないわけではありませんが、業界の将来を考えれば流通機構が効率化されるのは、むしろ喜ばしいことと捉えています。長い目で見れば、プラネットも体質強

● インターネットEDIのしくみ



化された業界で新たな事業を展開できるでしょう。

中でも、日用品雑貨化粧品大手の卸パルタックが医薬品卸メディセオと合併したのは大きいですね。まさに業界を越えた合併で、これはプラネットにとって未開拓の分野だった大衆薬業界への扉が開かれたことを意味します。この分野ではドラッグストアの業績が相変わらず好調で、今後ますます有望と思われます。

ペット業界についてはいかがでしょうか

現在、日本では2515万頭のイヌ、ネコが飼われています。子供のいないお年寄りから若年層まで幅広く、少子化とは逆に増えることはあっても減ることはないでしょう。ペット用品はホームセンターなどによる安売りが激しいのですが、一方ではやはり高級品志向も着実に根付いてきています。また、新製品開発も激し

く他業種からの新規参入も相次いでいます。将来性のある市場であることは間違いありません。

人口減少イコールマーケットの縮小というわけではないのですね

必ずしもマーケットの縮小を意味することにはならないと思います。また、たとえば日本では、もともと段ボールでまとめ売りするようなアメリカ式のやり方は成功していません。しかも、高齢化が進むと老人はあまり量を食べられませんから、自ずと品物は小口にならざるを得ない。これは食品ばかりではなく、日用品雑貨化粧品でも同じことなのです。小口化されればされるほど日々のデータ転送量が増えるので、プラネットにとってはビジネスチャンスが増えるということも言えます。

そういえば、2005年12月にはEDI事業で月間通信処理データ量が1億レコードを突破しました

はい。この数字は、前年同期比で108%で過去最高の処理量になりました。また、年間ベースでは10億レコードも達成しています。

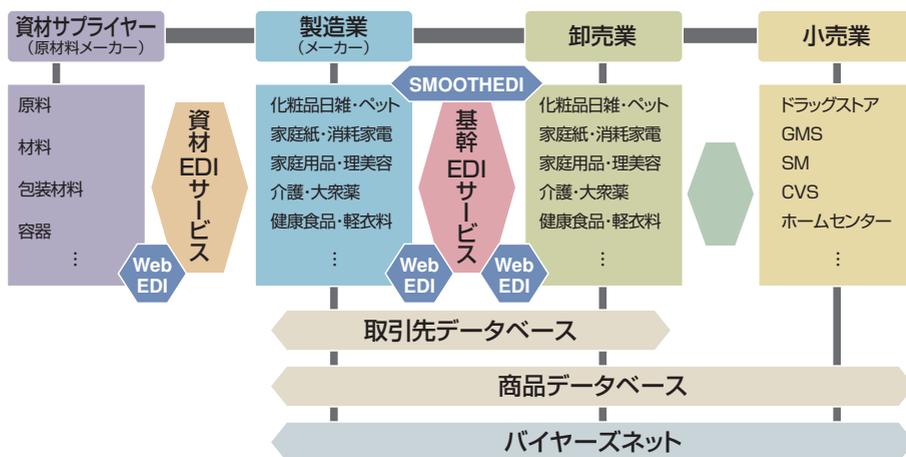
要因としては、これまでお話ししてきたように理美容、介護、ペット、大衆薬といった新規ユーザー数が大幅に増加したことが挙げられますが、1985年のサービス開始以来、20年間にわたって標準EDIの普及に力を注いできたことを評価していただいたのではないのでしょうか。また、消費者需要も回復しつつあり、流通業界の荷動きも比較的活発化してきたことも影響していると思われます。

昨年来、東京証券取引所のシステムダウンや処理能力の限界で、株式市場が一時的にストップするという事件が起きています。複数の業界のEDIネットワークを運営するプラネットの危機管理は万全でしょうか？

プラネットにリスク要因があるとするれば、まさにその部分でしょう。EDI通信処理量の急増を踏まえ、一層安定的なEDI運用を保証できるようにすることが当社の使命だと考えています。

私は、プラネットを関連業界の「インフラ」だと捉えています。インフラがストップするわけにはいきません。2005年8月には6年ぶりの大規模なシステムの更新で、安全性を一層高めました。ハードウェアはどうしても老朽化しますし、さまざまなスペックも最新のものは

●プラネットのサービス領域



劇的に向上しています。早めに手を打つに越したことはありませんから。

これまでお聞きしたような環境下で、プラネットが今後展開していく新サービスとはどのようなものになるのでしょうか。

柱である基幹系EDIに加えて、すでにWeb-EDIやインターネットEDIといった新サービスの提供を開始しています。また、先ほど「プラネットはインフラだ」と申し上げましたが、それは水道やガス、電気のようなものということですよ。インフラに支えられて鍋や釜を使うのがユーザーさんだと思っていたのですが、最近、時には鍋や釜までやっていく必要があると考えています。ネットワークの高度化にともない、鍋・釜もリニュー

アルする必要があるのですが、なかなか手がまわらないというユーザーも多数あるからです。

これらのサービスはいずれも即座に莫大な利益を上げるわけではありませんが、良い鍋・釜があれば、インフラの稼働率も上がるというわけです。



● プラネットの主要取引先企業 (50音順、敬称略)

アース製薬	牛乳石鹼共進社	ジョンソン・エンド・ジョンソン	日本ペットフード	松下電器産業
アイシア	キューピー	住友スリーエム	白元	マンダム
江崎グリコ	杏林製薬	ソニーマーケティング	バンダイ	ユニ・チャーム
エステー化学	クレシア	大王製紙	P&G	ユニリーバ・ジャパン
エフティ資生堂	クレハ	大日本除虫菊	久光製薬	ライオン
王子ネピア	コーセー	ツムラ	ビジョン	ロート製薬
オムロンヘルスケア	小林製薬	テルモ	ファンケル	… など
貝印	サランラップ販売	ドギーマンハヤシ	フマキラー	合計320社
花王	サンスター	日本香堂	ホーユー	
カネボウ	ジョンソン	日本食研	マスターフーズリミテッド	(2006年1月31日現在)

EDI通信処理量が月間1億レコードを突破しました



当社のEDI（電子データ交換）事業における2005年12月の月間通信処理データ量が1億レコード（前年同月比108%）を突破し、月間ベースで過去最高の処理量を記録しました。また、年間ベースでは通信処理データ量が10億レコードに達しました。

このEDIは日用品雑貨化粧品業界とその周辺業界で、メーカー320社と、卸売業471社との間で大規模に

利用されています。そのほかにも資材サプライヤー246社を対象とする資材EDIや、業界共同輸送システム向けの物流EDIなども提供しています。

1レコードというのは、だいたい128文字の情報量となり、消費財業界で使用されている伝票のおおよそ1行分に相当します。ですから試算すると日用品雑貨業界全体の商品売上高の8割くらいの範囲で、プラネットEDIが利用されているのではないかと推測が可能な規模となります。

当社では、このようなEDI通信処理量の急増を踏まえて、より一層安定的なEDI運用を保證できるような努力を今後も継続してまいります。

ユーザー会2005開催報告



盛況の中、熱心にプラネットの説明を聞くユーザー企業のご担当者

2005年11月に東京、大阪でプラネットユーザー会を開催し、多数のユーザーが来場しました。この会は、当社のユーザーを対象として例年開催されており、既存サービスの利用状況や新規サービスの内容説明、今後の企業間ネットワークの方向性などについて説明を行っています。

今回は、玉生社長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局による「流通・物流システムの革新を目指して」と題された基調講演を通じて、日本の次世代情報共有基盤についての確認を行いました。

その後、プラネットEDI・データベースなどを利用している企業のうち、営業・マーケティング部門ユーザーへは「商談業務の効率化を支援するバイヤーズネット」、情報システム部門ユーザーへは「新ネットワークサービスとEDIサービスの状況」について説明を行いました。

第6回JAPANドラッグストアショー



プラネットの専用ブースにて、来場者への説明や宣伝を行う

2006年2月に幕張メッセで開催された「第6回JAPANドラッグストアショー」に出展しました。この展示会は、当社のEDI・データベース利用業界である日用品雑貨化粧品や大衆薬業界などの主要販路であるドラッグストア業界における国内最大のイベントです。メーカー・卸売業などの流通関係者による商品提示、流通向けソリューションを提供するシステムベンダーによる製品・サービス展示が行われますが、当社は、流通関係者による商談や仕入・品揃え業務を支援する「バイヤーズネット」について、ビデオやパソコンを用いたデモンストレーションを行い、ドラッグストア業界に関係する多数の来場者への宣伝を通じて認知度向上を目指しました。

当中間期の事業概況

■ 事業環境及び経営成績

当中間会計期間の日本経済は、設備投資の伸長や輸出の持ち直しにより企業収益に改善の動きが広がり個人消費も緩やかに増加するなど、回復基調にありました。当社の主要マーケットである日用品雑貨化粧品業界では一部の企業が業績の回復を見せ、消費者需要も堅調に推移し物流も比較的活発化してきましたが、市場での販売価格の下落傾向は続いています。また、一方では原油高に伴う原材料価格の高騰も進みつつあり、企業収益への影響が懸念されています。

こうした状況下、当社は既存ユーザーのEDI利用率向上を図り、またペット関連、理美容、介護、家庭紙、大衆薬業界に対するサービス普及を促進しました。さらに各利用メーカーの荷動きが比較的活発だったこともあり、2005年12月には月間ベースで過去最高の通信処理量を記録しました。

この結果、当中間会計期間の売上高は11億4,171万円

(前年同期比7.2%増)となり、経常利益は2億2,605万円(前年同期比42.7%増)、中間純利益は1億3,142万円(前年同期比19.0%増)と大幅に増加しました。

■ 事業別の営業概況

プラネットの事業はEDI事業、データベース事業及びその他事業に分けることができます。

● EDI事業

当中間期は、EDI利用率の向上推進や隣接・新規参入業界開拓、インターネットを利用したWeb-EDIの普及などによる通信処理量増加の結果、売上高は9億7,002万円(前年同期比6.4%増)となりました。

● データベース事業

照会件数の順調な伸びにより、当期の売上高は1億5,895万円(前年同期比10.0%増)となりました。

● その他事業

メーカー・卸売業・小売業間のマーチャンダイジング



業務を支援する「バイヤーズネット」、メーカーからの依頼により、卸店から小売店に出荷された販売実績をバイヤーズネット経由で提供する「販売レポートサービス」などがあり、売上高は1,273万円(前年同期比44.7%増)となりました。

■ 中期的な経営戦略

プラネットのサービスは、日々取引のある企業を複数対複数でつなぎ、相互のEDIを実現するというもので、完成したネットワークは業界インフラとして機能します。まさに「インフォメーションオーガナイザー」であり、今後は流通機構全体の機能強化と、マーケティング情報のデータベース運営・配信会社を目指します。

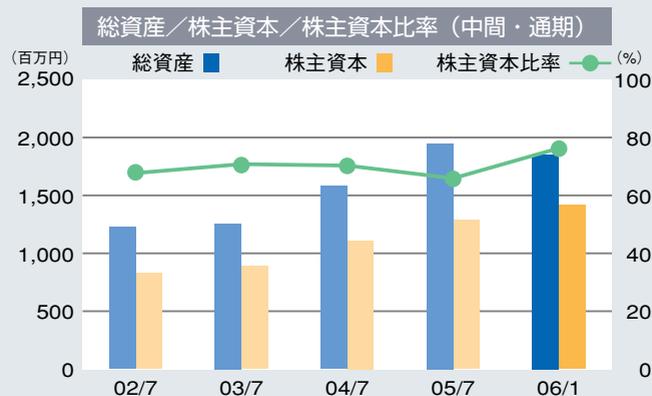
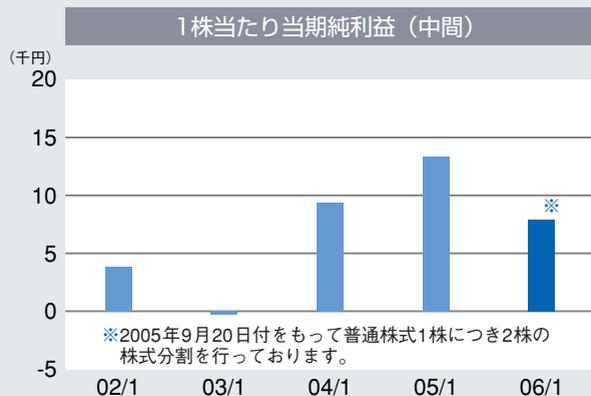
そのため、既存ユーザーのEDI利用率の向上と隣接業界へのネットワークサービスの拡大、これまで基幹系業務中心だったサービスから情報系のサービスメニュー拡大へと、さらなる展開を図っていきます。

■ 2006年7月期の見通し

日本経済全体では回復基調が持続するとの見方が有力ですが、これまでの厳しい環境を払拭するほどの力強さは期待できません。消費財流通業界では一部の企業で業績が回復、消費者需要も底堅く推移していますが、商品価格の停滞傾向は続くものと思われま

す。こうした環境下で、プラネットはより広くEDIを浸透させるべく、既存ユーザーのEDI利用率を高めながら、大衆薬等の隣接業界へのネットワーク構築を進めます。また、「商品データベース」の利用促進と、小売業のバイヤー、卸売業の仕入・営業担当、メーカーの営業・マーケティング担当をネットワーク化する「バイヤーズネット」の一層の機能強化を行い、さらなる展開を図ります。

その結果として、2006年7月期は売上高22億3,000万円(前期比2.0%増)、経常利益3億9,000万円(前期比10.3%増)、当期純利益2億6,000万円(前期比11.5%増)を見込んでいます。



中間財務諸表（単体）

中間貸借対照表

（単位：千円）

	当中間期末 2006.1.31現在	前中間期末 2005.1.31現在	前期末 2005.7.31現在
（資産の部）			
流動資産	979,615	1,071,292	1,095,716
現金及び預金	708,141	808,594	784,311
売掛金	248,407	245,855	290,213
前払費用	3,606	3,606	3,654
繰延税金資産	15,746	12,378	14,753
その他	4,114	1,358	3,284
貸倒引当金	△ 400	△ 500	△ 500
固定資産	876,288	676,138	854,356
有形固定資産	10,284	10,241	8,659
無形固定資産	400,693	315,520	476,699
投資その他の資産	465,310	350,376	368,998
投資有価証券	251,349	277,355	203,829
関係会社株式	146,700	—	83,090
その他	67,261	73,182	82,111
貸倒引当金	△ 0	△ 161	△ 33
資産合計	1,855,903	1,747,430	1,950,073

■ 資産

流動資産は、ソフトウェア開発による支出などにより、前年同期末比9,167万円減、固定資産は、主にソフトウェアの取得などにより同2億15万円増となりました。この結果、総資産は前年同期末から1億847万円増加しています。

（単位：千円）

	当中間期末 2006.1.31現在	前中間期末 2005.1.31現在	前期末 2005.7.31現在
（負債の部）			
流動負債	326,889	460,408	558,352
買掛金	168,005	188,870	189,724
未払金	22,872	165,703	244,115
未払法人税等	81,763	69,744	91,174
賞与引当金	15,688	14,813	15,558
役員賞与引当金	6,000	—	—
その他	32,559	21,278	17,778
固定負債	112,617	96,249	106,109
退職給付引当金	63,752	52,847	59,907
役員退職慰労引当金	40,614	35,152	37,952
預り保証金	8,250	8,250	8,250
負債合計	439,506	556,658	664,461
（資本の部）			
資本金	436,100	436,100	436,100
資本剰余金	127,240	127,240	127,240
利益剰余金	791,110	598,810	696,560
その他有価証券評価差額金	61,947	28,620	25,710
資本合計	1,416,397	1,190,771	1,285,611
負債資本合計	1,855,903	1,747,430	1,950,073

■ 負債

流動負債のうち主にソフトウェアの取得による未払金が減少したことなどにより、結果として負債合計は前年同期末から1億1,715万円の減少となりました。

中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間期 2005.8~2006.1	前中間期 2004.8~2005.1	前 期 2004.8~2005.7
売上高	1,141,711	1,065,342	2,186,405
売上原価	557,957	574,262	1,161,974
売上総利益	583,753	491,080	1,024,431
販売費及び一般管理費	362,417	338,139	679,701
営業利益	221,335	152,940	344,729
営業外収益	7,109	5,419	11,184
営業外費用	2,392	—	2,256
経常利益	226,052	158,360	353,657
特別利益	2,101	24,402	24,432
特別損失	26,079	16	4,355
税引前中間(当期)純利益	202,075	182,746	373,734
法人税、住民税及び事業税	81,700	67,500	145,300
法人税等調整額	△ 11,046	4,776	△ 4,658
中間(当期)純利益	131,422	110,470	233,093
前期繰越利益	290,987	159,640	159,640
中間配当額	—	—	24,873
中間(当期)未処分利益	422,410	270,110	367,860

■ 売上高

事業別売上高構成比は、中核であるEDI事業による売上が好調に推移し85.0%を占め、以下データベース13.9%、その他1.1%となっています。

■ 営業利益

組織強化に伴う販売費及び一般管理費の増加(前年同期比2,427万円)がありました。売上高の増加(前年同期比7,636万円)及び売上原価の低減(前年同期比1,630万円)などにより、営業利益は前年同期に比べ、6,839万円増加しました。

■ 経常利益

経常利益は前年同期比6,769万円増加しました。

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間期 2005.8~2006.1	前中間期 2004.8~2005.1	前 期 2004.8~2005.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	209,705	122,934	297,302
投資活動によるキャッシュ・フロー	△261,056	△23,916	△197,835
財務活動によるキャッシュ・フロー	△24,819	△41,216	△ 65,948
現金及び現金同等物の増加額	△76,170	57,801	33,518
現金及び現金同等物の期首残高	784,311	750,792	750,792
現金及び現金同等物の期末残高	708,141	808,594	784,311

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前中間純利益の計上などにより、前年同期比8,677万円増となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用した資金は、2億6,105万円となり、主にソフトウェア取得及び投資有価証券の取得などによるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いにより、2,481万円を使用しました。

企業情報

■ 会社名	株式会社プラネット
■ 英文社名	PLANET, INC.
■ 主な事業内容	EDI基幹プラットフォームの 構築・提供・運用
■ 本社	東京都港区海岸3-26-1 パーク芝浦
■ 設立	1985年8月1日
■ 資本金	4億3,610万円 (2006年1月31日現在)
■ 従業員数	34名 (2006年1月31日現在)



パーク芝浦 12階

■ 取締役及び監査役 (2006年1月31日現在)

取締役会長	中尾 哲雄
代表取締役社長	玉生 弘昌
取締役副社長	井上 美智男
常務取締役	石橋 光男
取締役	藤重 貞慶
常勤監査役	池井 邦信
監査役	坂口 克彦

■ 執行役員 (2006年1月31日現在)

執行役員社長	玉生 弘昌
執行役員副社長	井上 美智男
執行役員常務	石橋 光男
執行役員	染谷 実
執行役員	長井 求

■ 監査法人 明和監査法人

株式の状況

会社が発行する株式の総数38,400株
 発行済の株式の総数16,582株

大株主

ライオン株式会社2,646.6株
 日本スタートラスト信託銀行株式会社
 (退職給付口・(株)インテック口)2,646.0株
 ユニ・チャーム株式会社752.4株
 株式会社資生堂752.4株
 サンスター株式会社752.4株
 ジョンソン株式会社752.4株
 エステー化学株式会社752.4株
 株式会社クレシア752.4株
 牛乳石鹸共進社株式会社752.4株

株主数 794名

名義書換代理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

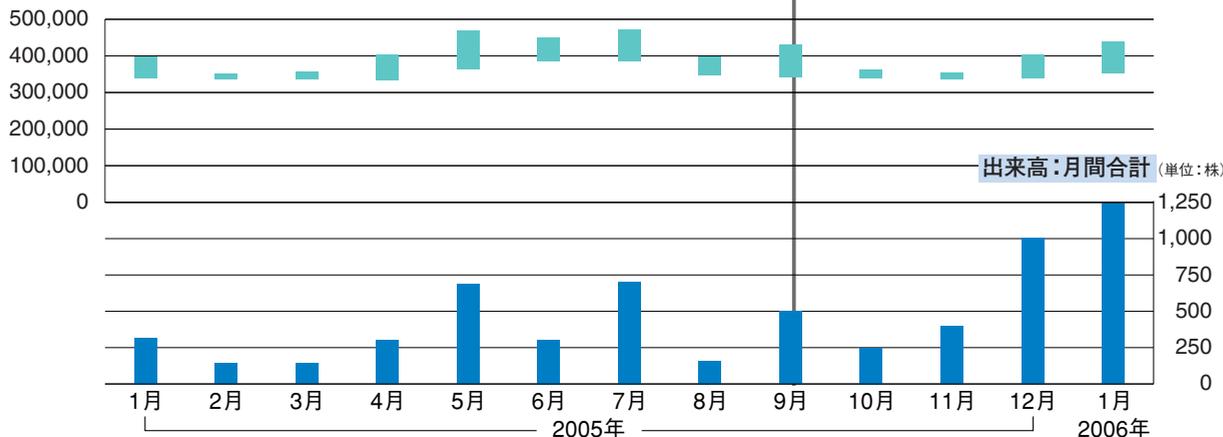
上場取引所 JASDAQ(証券コード:2391)

IR連絡先 経営企画室 / TEL 03-5444-0811
 e-mail keiei@planet-van.co.jp

URL <http://www.planet-van.co.jp>

株価、出来高

株価:月間高値・安値 (単位:円)



株式分割

2005年9月20日付をもって普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

株主メモ

- 決算期 : 7月31日
定時株主総会 : 毎年10月に開催
株主確定基準日 : 毎年7月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
- 公告掲載新聞 : 日本経済新聞
ただし、決算公告に代えて、貸借対照表を当社のホームページ
(<http://www.planet-van.co.jp/ir/pn.html>) に掲載しております。
- 名義書換代理人 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 : 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先 : 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 同取次所 : 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

■ お知らせ 配当金のお受け取りには便利な「口座振込」をおすすめします

配当金のお受け取りには、郵便局で直接お受け取りいただく方法と銀行・郵便局等への「口座振込」によりお受け取りいただく方法がございます。

「口座振込」によるお受け取りには、あらかじめ「配当金振込指定書」をご提出いただく必要がございますが、「口座振込」をご利用いただくと、「配当金の受取を忘れていた」、「郵便局で受け取るための書類が見つからない」といった心配がなくなり、安全かつ確実に配当金をお受け取りいただくことができます。

配当金の「口座振込」をご希望される場合には、お手数ですが、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部へお申し出下さい。



この事業報告書は、古紙配合率100%の再生紙、VOC（揮発性有機化合物）発生を低減する植物性大豆油インキ、廃液を出さない氷なし印刷を採用しています。